

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南小倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

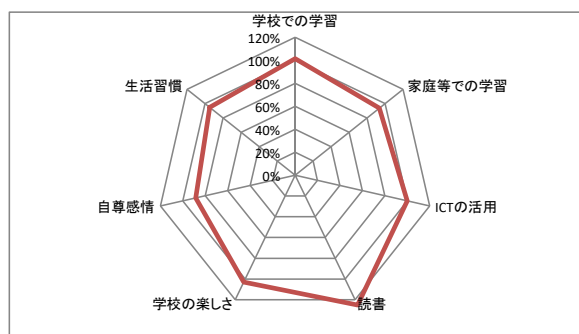
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	話す・聞く力については、全国平均とほぼ同程度である。文章を読み取る力や、題意に即して書く力のさらなる定着が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く力や、文章の表現効果を考える力は、全国平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	人物像や物語の全体像を具体的に想像し、適切に記述する力に課題がある。	
算数	全体的な傾向や特徴など	図形についての知識・技能については、全国平均を上回っている。一方で百分率を用いて考える問題など、変化と関係を思考・判断・表現する問題を苦手としている傾向があり、これらの学力の向上が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図形を構成する要素に着目して、長方形やひし形の意味や性質についてよく理解できていた。	
	努力が必要な問題	加法と乗法を混合した数の求め方を解釈し、他の場合の求め方を記述する力に課題が見られた。	
理科	全体的な傾向や特徴など	平均正答率よりわずかに下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	冬の天気と気温の変化を基に分析、解釈して自分の考えをもつことが、よくできていた。	
	努力が必要な問題	光が直進する性質を基にして、問題に則して応用させる力に課題が見られた。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・1日当たりのテレビゲームやスマートフォンでの動画視聴・SNSの利用時間は、3時間以上利用している児童の割合が特に高い。 ・朝食を食べている児童や、毎日同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きるという生活習慣・リズムが身に付いている児童の割合は全国と同程度である。 ・人の役に立つ人間になりたいと思っている児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。 ・読書習慣が定着している児童の割合は全国平均を大きく上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・調べ学習や交流場面、ドリルアプリの活用など、GIGA端末の積極的な活用をさらに推進していく。
 ・1時間の授業の中で、自分の考えを書かせる時間や、感染症予防対策を講じながら話し合う活動の時間の確保を適切に行っていく。これらの取組を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

今年度も、全校児童で学びチャレンジウィークに取り組んだ。各学級から選ばれた家庭学習ノートを、児童の目に触れる場所に掲示することで、その工夫や良さを共有できるようにし、更なる家庭学習の定着を図った。家庭との連携も継続していく。